

国際部会（平成 21 年度第 2 回）議事録

日時：平成 21 年 12 月 7 日（水）15:00～17:00

場所：地盤工学会会議室

出席者：○印出席、×印欠席

古 関 部 長	○	勝 見 部 員	×	小 宮 部 員	×	塚 本 部 員	○
堤 部 員	○	中 野 部 員	○	西 村 部 員	×	ハザリカ部員	○
棕 木 部 員	○	渡 部 部 員	○				

議事録：堤

<配布資料>

別紙－ 1：平成 21 年度第 1 回国際部会議事録（案）

別紙－ 2：国際地盤工学会 Council Meeting 報告

別紙－ 3：国際地盤工学会 Student and Young Members Presidential Group 報告

別紙－ 4：香港地盤工学会の来日視察

別紙－ 5：JS-Fukuoka 2009 報告

別紙－ 6：外国人名誉会員推薦依頼

別紙－ 7：国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議 アブストラクト審査結果（部会終了後に回収）

別紙－ 8：TC 関係

別紙－ 9：平成 22 年度国際関係予算案

別紙－ 10：IS-Kanazawa2012 組織委員会構成案

<議事>

1. 【報告事項】

1) 平成 21 年 9 月理事会への報告（10 月は休会、11 月は国際部の議題なし）

報告事項 ①国際委員会議事録（21.8.18 開催）

②IS-Hokkaido 2012 実行委員会構成案

予備審議事項、審議事項 なし

2) 国際会員メーリングリスト送信履歴（2009.8.19-2009.12.6）

9/4 「国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議」（2011.5.23-24、香港）アブストラクト募集のお知らせ

9/29 ISSMGE News Bulletin September 2009 発刊のお知らせ

10/29 「第 4 回日中地盤工学シンポジウム」（2010.4.12-14、沖縄）論文募集のお知らせ

11/2 「第 4 回日中地盤工学シンポジウム」論文募集締切延長のお知らせ

11/4 「第 5 回地盤材料の変形特性に関する国際シンポジウム」（2011.8.30-9.2、ソウル）開催のお知らせ

3) 国際地盤工学会 Council Meeting 報告

【別紙－ 2】

カウンシルミーティングでは国際地盤工学会の次期会長（Briaud 氏に決定）、次回国際地盤工学会議の開催地（パリに決定）と論文集形態の変更（印刷版は概要集のみで本論文は CD-ROM に収録）、投稿論文の総ページ数割り当ての方針（会員数に比例、JGS にとっては有利な変更）などが主に報告された。アジア地区代表者会議ではサウジアラビアの関係者が出席し、国際地盤工学会への加盟を準備であることが報告された。その他詳細は地盤工学会誌に掲載予定。

4) 国際地盤工学会 Student and Young Members Presidential Group 報告

【別紙－ 3】

日本からは小山氏（京大助教）が推薦された。メンバーには選ばれなかったが他国の推薦者を含む連絡網に登録され、引き続き情報交換がなされる予定。

5) 香港地盤工学会の来日視察

【別紙－ 4】

来日予定者は 40 名程度で、山田氏（日特建設）が直接の連絡担当。国際部としての全体的な対応は古関部長から渡部部員に引継ぎ。国際部内では羽田見学に渡部部員、土研見学に古関部長、名古屋大学見学に中野部員がそれぞれ対応。これに対する JGS からの予算支出はなし。

6) 第 4 回日中地盤工学シンポジウム進捗状況

小宮部員からの報告は以下の通り。参加費は 35,000 円とし、若手は 15,000 円に優遇する予定。

(1)日本側では、45 編の論文投稿があった。なお、複数の投稿予定者から要望があったため、論文投稿締切を会告の 10 月 30 日から 11 月 13 日に延期した。この結果、10 月末日現在の投稿数 22 編が 45 編まで増加した。

(2)11 月 17 日に学術委員会を開催し査読者を決定した。現在査読中。各論文に対し、担当委員＋査

読者 2 名の計 3 名で Full paper 査読を行い採否決定。年内には、結果を著者に連絡する予定。

(3)Symposium Web-page を作成し、JGS ホームページに UP 予定。

(4)日本側 Key-note 講演者候補は、太田先生（中大）、田中先生（北大）、渡嘉敷先生（琉球大）の 3 名。

(5)シンポジウム論文集は CD-ROM 版とし、会議当日には 1 頁／論文のアブストラクト集を印刷・製本して配布予定。

- 7) International Joint Symposium on Geodisaster Prevention and Geoenvironment in Asia (JS-Fukuoka 2009)（九州支部主催）報告 【別紙－5】
 椋木部員より報告。60周年記念式典と合同でバンケット開催。地盤工学会誌でも報告予定。次回は韓国で開催、今後は台湾にも参加呼びかけ予定。
- 8) 外国人名誉会員推薦依頼 【別紙－6】
 各部部长、各支部長に推薦依頼状を送付。国際部内からの候補者推薦も受け付けるので期日までに各部員で検討する。
- 9) その他
 なし

2. 【予備審議事項】

なし

3. 【審議事項】

- a. 国際地盤工学会第 14 回アジア地域会議（2011.5.23-27、香港）アブストラクト審査結果 【別添資料】【別紙－7】
 国内の応募論文総数は 98 編。会員数を考慮した割り当て編数(案)は現状で 180 編となっているが、今後減る可能性あり。最終的な割り当て編数が 98 編以下の場合には従来どおりの基準で通過者を決定（ボーダーライン上で同点の場合の順位付けのルール；金メダル獲得数、共著者数、投稿者年齢の順）。応募者数を超える枠に決まった場合は特に審査結果の悪い概要のみ警告付きとし、全編通過。警告付き概要の本論文の書式確認では内容にも特に注意して査読する。審査結果の通知には英文概要の評価（A, B, C の個数）を報告し、C の付いた概要は再提出を依頼する。通知文面の作成は渡部部員が担当する。今回の審査結果に基づいて若手優秀論文賞の候補者（各分野で最も審査結果の良かった若手の主著者）を選出し、本論文の書式確認の段階で審査する。
- b. TC 関係 【別紙－8】
 次期タームも引き続き JGS がホストする可能性が高い（国内委員会の活動費を支給する）のは TC3, TC29, ATC3, ATC8, ATC10。TC35 と TC23 は問い合わせ中。新規では TC41 に Chair, Secretly なしの国内委員会設置の可能性あり。現状ではホスト総数が大幅に減少する見込みなので、候補のある場合は適宜報告する。
- c. 平成 22 年度国際関係予算案 【別紙－9】
 国際交流基金は公益法人化後には異なる形態となる見込みであるが、これまでと同様な国際交流活動の予算は引き続き確保される予定。
- d. IS-Kanazawa2012 組織委員会構成案 【別紙－10】
 構成案が別紙のとおり承認された。
- e. IS プロシーディングスについて
 これまでは印刷した論文集を作っていたが、今後は CD 版のみでも良いこととなった。
- f. 公益法人化に伴う学会規定の変更
 西村部員が引き続き担当。必要に応じてメール審議する。
- g. その他
 なし

* 国際部から提出する 1 月理事会の議題（審議事項、予備審議事項、報告事項）は事務局で準備

* 次回部会は必要に応じて来年 3 月～4 月に開催